

宇部市地球温暖化対策ネットワーク設立10周年に寄せて

元幹事 酒井 恵一

宇部市地球温暖化対策ネットワーク（UNCCA）設立10周年、誠におめでとうございます。

2002年5月、産官学民の広範な団体からの集まりを得て発足し、試行錯誤を繰り返しながら事業を継続され、現在では民生・運輸部門を中心に温暖化対策事業を幅広く展開される体制を築かれたことを心からお喜び申し上げます。

これも、各界から参加され、無報酬で活動に従事された多くの会員のご努力と、中西代表をはじめとする歴代役員のご指導や強固な事務局体制の賜物と敬意を表します。

私自身は、勤務先の市役所の人事異動により、2005年4月に当時の環境共生課地球温暖化対策係に配属されたことから、約5年にわたり市の温暖化対策事業と関わりを持たせていただきました。また、その間、個人的にもUNCCAの幹事を拝命させていただくこととなりました。

配属当初、既に現在の寿町の事務所に事務局を移転する準備が進められており、7月には市庁舎から移転するとともに常勤職員を雇用されるなど、体制が大きく変わることとなりました。

その際、独立した事務所設置に要する、固定費（家賃・光熱水費・事務機器費・通信費等）の多さに驚いたことを思い出します。

当初は、事業の方向性の議論に一定の時間をかけながらも、並行して産官学民の150団体・個人の強みを生かし、マイバッグ運動やソーラーマイレージ事業、フィフティ・フィフティ事業、省エネ家電事業、スマート通勤運動、Eーサイクル事業、CO2吸収源森づくり事業を、メディアや企業・商工団体・大学等と連携して次々に実施されて来られました。

今後も、宇部地域の「地球温暖化対策地域協議会」として環境省に登録されるなど幅広いネットワークを持つことの優位性を生かした各会員と連携した事業を継続されることが大切と考えます。

なお、今年の、福島第一原子力発電所の事故等を受け、国内においてもより一層の省エネ意識の拡大やライフスタイルの見直しの機運が高まりつつあります。

これらを受け、今後も事業の継続とともに会員の拡大・組織の強化に努められ、より一層のUNCCAのご発展と地球温暖化対策事業の進展を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



2006年宇部市リサイクルフェア



2008年UNCCA総会でのプレゼン